特集　広がる獣医師による支援

公益社団法人神戸市獣医師会主催による学校・園飼育担当者研修会の報告

赤松　真一

令和４年８月 24 日に公益社団法人神戸市獣医師会は神戸市内の小学校と幼稚園の先生方を対象にした学校園飼育動物担当者研修会を開催しましたので報告致します.

１　当会の行う学校園飼育動物の２事業について

当会では，学校園動物ふれあい事業を平成 13 年より神戸市環境衛生課と，治療や飼育相談を行う学校園飼育動物飼育支援事業を平成 23 年より神戸市教育委員会と行っています.学校園動物ふれあい事業に関しては本年令和４年度より,神戸市環境衛生課が撤退したため,当会の独自事業として継続しています.

２　神戸市の学校園飼育担当者研修会について

(1) 現在までの流れと今回開催決定まで

神戸市立小学校･幼稚園の飼育担当者を対象とした研修会は，平成 15 年（2003）より令和元年（2019）までは，神戸市教育委員会が夏期の教員研修の一講座として設け,神戸市環境衛生課が行う動物愛護行政の事業の一つである学校動物ふれあい事業の一環として神戸市獣医師会から講師を約５名派遣するという方法を取っていました.この３団体で上手く連絡を取り合い分担し,小学校を会場として行われていました.

ところが，平成 30 年（2018）頃より，全国的な流れである教員の働き方改革が考慮され始め，夏期の研修会の減数，取りやめがある中，神戸市教育委員会と協議しながら，開催されていました.しかし令和２年(2020)に新型コロナ感染症が発生したため,2020 年,2021 年と休止としました.本年令和４年（2022)には神戸市環境衛生課が学校動物ふれあい事業から撤退し,教員の働き方改革がさらに進み,今まで通りの方法で行うことは不可能となりました.コロナ禍以前の研修会は，教員の働き方改革がありながらも，本研修会に参加される教員の数に大きな変化は無く，25 名前後と一定人数を保っていました.その中では教員の飼育介在教育に対する熱心さや,実際にお困りになっていることを解決したいという情熱が感じられていました.このようなコロナ禍前の研修会への教員の参加状況を考えると，このまま，飼育担当者研修会を一旦やめてしまうと再開,新規開催することは難しいことが予想されるため当会のベテラン学校飼育動物委員からも飼育担当者研修会は続けるべきであるという意見もあり,当会理事会承認を得て神戸市獣医師会主催で行うことを決定しました.

(2) 研修会の日程調整と参加者の募集方法

働き方改革により,業務として参加していただくことは不可能なため,あくまでも教員の夏期休暇を利用しての希望者参加方式の研修会を行うことを神戸市教育委員会に提案しました.その結果，神戸市教育委員会の了承・協力が得られ，教員が参加しやすい日程を調整していただき,研修会開催のお知らせと参加希望者の取りまとめをしていただきました.

３　研修会について

(1) 日程・会場・参加人数

今回の研修会では参加人数が予想できないことや当会予算の都合もあり,できる範囲で行うように計画し，令和４年８月 24 日(水)13：30～15：30 の２時間で，研修会場は当会が入居しているビルの１階会議室で行いました.６名の先生にご参加いただき，内訳は小学校教員４名,幼稚園教員２名の先生方でした.以前の 25 名前後参加のあった研修会に比べると，少人数となりましたが，翌

日より２学期が始まる先生もいらっしゃり，参加された皆さんの熱心さに開催した嬉しさを感じました. 結果的には新型コロナ第７波のこともあり，人数的に余裕がある方が感染対策・衛生管理も行いやすく，かつ，少人数だけにちょっとした質問などを実習しながら，打ち解けてお話しすることができ，内容の濃い研修会となった感がありました.

講話の様子

(2) 講話内容

講話１時間　質疑応答 20 分　実習 30 分休憩 10 分程度の割合で行いました.

講話は神戸市の小学校・幼稚園で多く飼育されている動物である(a)ウサギの話と神戸市立小学校の飼育の現状について，講話担当獣医師を替えて(b)飼育動物の児童・園児に対する影響とふれあい方法について，を 30 分間ずつの２構成で行いました.

(a)ではウサギの体の仕組み，習性，健康管理，食物について，飼育環境，かかりやすい病気，予防方法について，病気になった場合に当会と教育委員会で行っている支援事業で治療が受けられることなどを説明し，次に神戸市立小学校の飼育状況として，13 年前より行っているアンケート調査の結果による飼育校数の推移についてお話ししました. 神戸市立小学校では 13 年前の平成 22 年（2010）には 167 校の小学校の内，約 155 校の小学校（飼育校数率約 93%）が何らかの恒温動物を飼育していたのが，年々少しずつ減少していきました. 令和元年度（2019）には改元に合わせての長期休暇もあり激減し始め，令和２年には神戸市教育委員会から働き方改革の一環として動物飼育の縮小方針の発表，と同時に新型コロナウイルス感染症の発生・拡散もありさらに激減しました. 令和３年（2021）まではかろうじて飼育校数が無飼育校数を上回っていましたが，本年令和４年（2022）には飼育校数は約 75 校（飼育校数率約 46%）となり，とうとう無飼育校が飼育校を上回る逆転が起こりました.

また，鳥類においては平成 22 年（2010）には約 90 校で飼育されていましたが，平成 21 年（2009）の新型インフルエンザが神戸で初確認されたこともあってか，数年後より激減し始め，令和４年（2022）現在では約７校のみが飼育している状態であることをお話ししました. そして，これからの学校での飼育動物としてモルモットの紹介や近年の猛暑対策と飼育動物に親近感を持ちやすい屋内飼育についてお話しし，教員の飼育動物の世話に掛かる負担軽減の提案を致しました.

(b)では，ふれあい教室を行う獣医師の見地より，幼稚園と小学校では動物に対する反応の違いが認められ，幼稚園では飼育動物との心理的，物理的距離が近い場合が多く，多くの園児が，動物が好きと答えること，また，小学校のように教科学習が無いこともあり幼稚園の先生方は園児と動物の関係を良い関係に育み親しませる時間があるとこと，小学校でも低学年では多くの児童が，動物が好きと答えるが，高学年になるに従い学習や興味の対象が変わってくるため，できるだけ低学年のうちに動物とのふれあい時間を作ってあげることが好ましいと思われること，しかし，幼稚園と違い小学校では，学校により飼育動物に対する価値観が違い，その機会が得られにくい場合も多いことを話しました. 植物と違って動物は話題にも上げやすく，人と人とをつなぐ役割もできる存在なので，保護者も含めた学校全体で動物とのふれあいを持てる機会を設けることなども提案しました.

次に，動物とのふれあいに際して，人間側の一方的な「おさわり」とならないようにすることを話し，動物が嫌がらない「ふれあい」を行うため，動物の習性を理解し，嫌がることをしない，動物が喜ぶこと，安心するような接し方を学ぶこと，そして動物に人間を受入れて良いことがあるとわかってもらって，人間も動物とふれあって，楽しい，命のぬくもりを感じるという互いに良い関係を築く「ふれあい」を行うことが重要であること，この過程が相手の立場を理解し，他者の気持

ち・立場を考えられるきっかけとなることをお話し致しました.

(3) 実習内容

a. 講話でお話ししたウサギの体の仕組み・特徴・健康診断チェック部位の確認

b. ふれあい体験でのウサギの抱き方について

ウサギは落下により骨折しやすいこと, 後ろ足の筋力が強く, 爪による傷を子供が負わないような抱き方

c. ウサギのさわり方

手で激しく撫で動かすことはウサギを怖がらせるので, ゆっくりと静かに撫でるようにすること

d. 心音聴取

先生方ご自身の心音とウサギの心音の聴き比べ

実習の様子

(4) 質疑応答

事前に頂いた質問に加え, 当日の講話と実習についての質問を受けました.

・給食室からもらう野菜の切れ端の給与量について教えてほしい
・魚（グッピー）が増えすぎて困っています
・幼稚園でウサギを飼う上で，子供たちも動物に触れ合え，ウサギにもストレスのかからない理想的な飼育環境があれば教えてください.
・チモシーをよく食べさせたほうがいいと聞きましたが，あまり食べません.
・チモシーの種類を変えたほうがいいでしょうか.
・烏骨鶏の爪が伸びて自身に刺さりそう，どうしたらよいでしょうか？
・支援事業で動物病院受診する時はどの程度の病気から可能か？
・メダカや熱帯魚についても詳しい獣医師がお答えし, 共同事業である飼育動物支援事業の利用方法について神戸市教育委員会の先生から説明していただきました.

質問に答える獣医師

４　教員の感想

参加された６名の先生方からの感想を頂きました.（以下，原文のまま）

昨日は本当にありがとうございました. ３人の獣医師先生方の飼育動物に対する深い愛情と活動に対する熱意が伝わる研修でした.

私自身が恥ずかしながらしっかりとした知識を持ち合わせておらず，講義と実習から改めてウサギの生態や飼育方法について非常に勉強になりました. また獣医師の中野先生から，幼稚園と小学校とのふれあい教室の様子についての違いのお話に現場教員が考えなければいけない視点をもつことができました. そして学校園飼育において，子供たちの「受容」という体験が子供たちの「命あるものすべてに対する見方・考え方」が研ぎ澄まされるという教育的価値の大きさに気付かされました.

貴重な時間を設定してくださり，本当にありがとうございました.

学校園で飼育されることの多い生き物に適した飼育環境の作り方から，健康管理，世話の方法まで具体的に教えていただく機会は大変貴重でした. また，実際にウサギの心音を聞かせていただき，抱き方，健康観察等を教えていただいたことで, より生き物を大切にしたい，という思いが強くなりました.

昨今，教員の業務改善等の観点から学校園での飼育事業を縮小する傾向にありますが，子供達が小さな命に触れることで学ぶことはとても多いことを 改めて感じたことから，可能な限り飼育事業を継続したり，地域の方の協力を得たりしながら命の大切さを子供達が感じられるようにしていきたいと思いました.

先日は内容の濃い研修をありがとうございました． 専門的な知識もなく飼育担当になりました. うさぎかわいい！の情熱でいっぱいの子供達と一緒に「これでいいのかな？」と手探りで一学期を過ごしました. 白内障を患っており高齢のうさぎであると，引継ぎをうけており，扱いに不安でいっぱいでした. 子供達も触りたいのを我慢して，ストレスをかけないように注意しながら，長生きしてほしいと懸命に世話をしています. その健気な気持ちに応えたいと思い，研修に参加させていただきました. 神戸市内の学校園では，飼育動物は減少傾向にあるというお話でした. 確かに三連休の日は，世話をしに学校に出向くなど，大変ではあります. 我が校でも，今のうさぎさんが他界したら，新しい仔はお迎えしない方針です. 今の恵まれた環境に感謝しながら，子供達と一緒にがんばります. 研修に参加した事で，子供達に自信をもって発信していけます． ありがとうございました.

先日の研修会では，ありがとうございました. それぞれの学校園に合ったアドバイスやご回答をいただき，大変参考になりました. 今回の研修内容は，職場の先生方にも伝え，幼稚園内の飼育環境について，話し合う機会をもてました. 小さな命を大切に育てていくための知識と大人自身の意識も高めることができました. ありがとうございました.

今回の研修では，詳しい飼育方法やうさぎの特性，うさぎと良い関係になる触れ合い方を学びました． 実際に困っていることや小さな疑問に対しても丁寧に教えていただき，とても貴重な経験になりました． 私なりにうさぎのことを大切に思って飼育していたつもりでしたが，間違えていたこともあったので，学ぶことができてよかったです. そのなかでも特にふれあいという言葉の意味，飼育動物が学校にいる意味を深く考えたことがなかったので，驚きました. かわいいだけでなく，うさぎにとっても子どもたちにとっても良い関係を築けるよう努めていきたいです． 今回得た正しい知識や方法を，子どもたちや職員に伝えたいと思います. ありがとうございました.

先日実施いただきました学校園動物担当者研修会についての研修にてお世話になりました. 日頃，なかなかじっくりと考える機会をもてない飼育について，深く考え直すよい機会となりました. 特に，飼育場所の活用方法やウサギ飼育についての注意点を学ぶことができ有意義でした. ウサギの鼓動を聞いたときは，驚き感動しました. 烏骨鶏の爪切りについてもまたご相談させていただけると幸いです. 研修で学んだ内容を，職場で実践してまいります. 今後とも何卒お願い申し上げます.

５　今後の飼育担当者研修会について

全国的な流れと同様に神戸市でも動物飼育する小学校はどんどん減っていくと予想されます. 飼育する小学校が少なくなり，参加する教員が減少したからやめてしまうのではなく，少なくなるからこそ，動物の体の仕組みや習性・世話の方法についての知識・経験をもつ教員や相談し合える教員も減少するので，飼育担当者研修会を行う必要があると思います. 獣医師からの講話・実習や疑問・困っていることの相談・解決を行うことが一助となるとすれば，たとえ少人数でも研修会を開催することは意義のあることと考えます.

今後，飼育を行う小学校が減少していったとしても，時が経てば新たに動物飼育による教育を行いたいという小学校もいずれ出てくると思います. そのためにも我々獣医師側も学校飼育動物に対する知識や経験技術を絶やさないようにし，公益社団法人神戸市獣医師会として，飼育担当者研修会を神戸市教育委員会と連携し継続できるように努力していきたいと考えます.

追記として，神戸市立幼稚園では動物の飼育率はまだ高く，ほとんどの幼稚園が動物を飼育しています. 前述の通り，幼稚園では，

園児と飼育動物が小学校よりも親密であることが多く，幼稚園教員も園児と飼育動物の良い関係を作ることをお考えになられています．本研修会の５日前に神戸市立幼稚園の主催で神戸市立幼稚園西地区幼稚園教育実践研修の一講座として「幼児と飼育動物とのふれあいについて」が設けられ，当会に対し獣医師１名を講師として派遣依頼をいただき，講話・実習を行いました．この研修会は教育関係者が幼稚園での動物飼育の有用性を認識され，動物の飼育方法や接し方に関する知識と技術が必要と考え，獣医師を講師としてお呼び頂いたという理想的な研修会のあり方でした．神戸市ではこのような活動もあり，今後も教職者からの協力依頼を頂けることを期待したいと思います．

（神戸市獣医師会学校飼育動物担当理事）